

同友月報

No.350 平成30年10月5日発行

同友クラブHP <http://www.doyu-club.com>



■実施日 7月6日7日 ■開催地 伊讃公民館

7月例会 同友クラブ健康診断

■主 管 広報委員会
■委員長 佐藤 浩康



今年は再び伊讃公民館へと会場を移し、93名の検診を行いました。



検診後は福田記念病院のスタッフの皆さんと共に、健康の話をしながら昼食を共にしました。

今年も福田記念病院健診部のご協力により無事に同友クラブ健康診断を実施することができました。今回は竹島公民館から再び伊讃公民館へ場所を移しての実施となりましたが、特に混乱なく、スムーズな運営で、2日目は10時過ぎに受診が終了し、11時には会場を後にすることができました。

受診者数は6日が54名、7日が39名の合計93名と、昨年同様に多くの方に受診頂き、クラブ例会としての重要な役割を再認識致しました。

反省点としまして、審議から実施日までの期間に余裕をもった準備ができず、案内の郵送、回収から名簿作成、検査キット配布までの段取りにいくつかのミスが生じた事、また、申込書の氏名欄にふりがな記入がなく、読み違いが数件発生した事が挙げられましたので、来年度には再発防止に努めていきたいと思ひます。

検診後の昼食は、例年通り検診スタッフを交えて初日はダイヤモンドホールさん、二日目はホテルニューつたやさんを利用させて頂きました。短い時間ではありましたが、検診スタッフの皆さんとお料理を味わい、楽しみながらのひとは、貴重な懇親の機会となり、今後も良きパートナーシップを築けていけることを実感しました。

最後に検査キット配布におきましては平澤専務理事をはじめ、各委員長さんの惜しみないご協力を頂きましたことに深く感謝致します。ありがとうございました。

8月例会

■実施日 8月25日26日 9月9日
■主 管 未来創造委員会
■委員長 須藤 洋司

選手宣誓は新治野球スポーツ少年団主将の谷島優斗君

SHIMODATE GAKUDOU BASEBALL

第33回関東選抜しもだて学童野球大会



今年で33回を迎える学童野球大会、64チームの若き雄姿を応援しました。



小名浜少年野球教室



福原野球スポーツ少年団



新治野球スポーツ少年団



田中会長から手渡される優勝旗



メンバーからメダルを授与



ケーブルテレビのインタビューを受ける須藤委員長



初日、二日目は記録的な猛暑となりましたが、参加メンバーの協力のもと無事大会が終了しました。

今年度も、64チーム3日間の大会となり、初日34名、2日目23名、3日目20名、慰労会にも19名の出席をいただきました。

初日、2日目とも大変な暑さで、審判や子供達に熱中症で病院に行ったり、休んだりありましたが、皆たいしたことなく済んだとの報告がありました、今回初めて試合に給水休憩を取って良かったと思いました。来年も試合状況を見て給水休憩の継続をしたいと思います。

3日目は、朝からの雨のため、中止順延となり、1週間ずれたため上辺見ファイトーズが準決勝をあゆみ杯県大会のため棄権となりましたが、あゆみ杯県大会を勝ち抜き優勝いたしました、ここに報告させていただきます。

昨年より、ホストチームが減ったにもかかわらず、筑西市学童野球連盟様の協力により昨年同様、会員の皆様の負担も軽減できたのではないかと思います。

また、会員の皆様の中から会場に行っても何をして良いのか分からないとの声があり来年は、会員の皆様向けの説明会を開催し、同友クラブとしての意思統一をはかり会場で迷わない体制を作りたいと思います。

3日間協力いただきました皆様に感謝し報告とさせていただきます。

9月例会

主管：研修委員会 委員長：飯田 秀夫

第4次産業革命がもたらす変革を茨城県産業技術イノベーションセンターで学ぶ

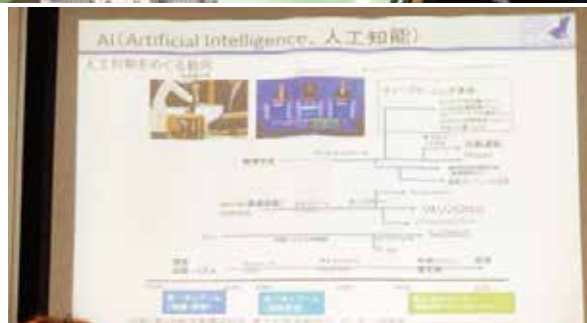
開催日：9月21日 場所：茨城県産業技術イノベーションセンター



食品加工試作工場では特に熱心に説明を聞くメンバー



はじめに大力（だいき）センター長から歓迎の挨拶を頂きました。



講義や案内をして下さった職員の皆様に謝辞を述べる田中会長と謝礼を手渡す中原副会長

今回の企画背景は、今後の産業構造の変革と「第4次産業革命」を実現するための道筋を茨城県産業技術イノベーションセンターに向き、その役割や施設を視察することで同友クラブメンバー自らの商売や事業へ活用して頂くことにありました。

当日はまず、技術基盤部門の平間様より「IoT・AIの現状と期待される未来像」というテーマで30分程の講義を受けましたが、IoT（インターネットオブシングス）の概念は様々な「モノ（物）」がインターネットに接続され（単に繋がるだけではなく、モノがインターネットのように繋がる）、情報交換することにより相互に制御する仕組みであり、その膨大な情報量を活用していくことがビッグデータ解析だということが学べ、質疑応答の場では様々な視点で盛んな質問が飛び交いました。

講義の後は館内の視察となり、IoT実証室では多関節ロボットと画像処理装置の組合せによって人の動作に習った複雑な作業を実施するなど、超省力化に向けた取り組みが盛んに行なわれており、次世代モノづくりのあるべき姿を垣間見た気がしました。終盤は食品加工試作工場を視察しましたが、食を生業とするメンバーが積極的に質問する様子が伺え、私たちにとって有意義な施設であることを強く実感しました。

視察の後は涸沼の広浦屋に移動し、雄大な夕日を見ながらのクルージングを楽しむ予定でしたが、当日はあいにくの雨模様となってしまう、風もあったため、屋形船の出航が出来ず、涸沼の夕陽は眺めることは出来ませんでした。しかしながら、懇親会では涸沼で捕れた天然ウナギやシラウオ料理、また、大粒のシジミの吸い物など天然の幸を主とした料理に舌鼓を打ち、メンバーは一様に満足気でした。

帰りの車中では、お店に準備して頂いた50パックの涸沼産シジミを販売しましたが、あっという間に完売し、よいお土産になったことと思います。

最後に、平日の開催ではありましたが、仕事の融通をつけて参加して下さいった皆様に深く感謝致します。

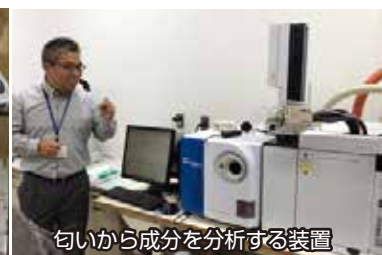
ありがとうございました。



IoT 実証室には様々な多関節ロボットがあり、実践的なプログラムがされていました。



糸のひかない納豆菌の開発など
当センターの支援によって製品
化された商品



匂いから成分を分析する装置



X線で非破壊で構造を観察する装置
（7千万円ほどするそうです）



茨城県産業技術イノベーションセンターの
新棟であるIoT／食品棟の前での記念撮影

頭を使った後は涸沼の広浦屋で天然ウナギや名産のシジミ、シラウオを食しながらの懇親会で例会を締めくくりました。



乾杯の音頭は笠倉監事から



中締めは小嶋監事



車中で最後の挨拶を
する飯田委員長
お疲れさまでした。



筑西三団体からの共同基金を
筑西市を通して高梁市に寄付
8月28日 市長室にて

西日本豪雨災害義援金寄付

本年7月5日から発生した豪雨で、西日本の広範囲にわたり、甚大な被害が発生しました。筑西市の友好都市である岡山県高梁市でも、土砂崩れや住宅・道路の冠水など市内全域で大きな被害を受けました。筑西市では市役所内などに募金箱を設置し、市民に支援を呼びかけています。

そこで、同友クラブとして、知事を囲んでの合同新年会で集まった筑西三団体共同基金全額232,060円を、下館青年会議所、下館商工会議所青年部にも呼びかけ、筑西市を通して高梁市に寄付を行いました。